

## 平成 23 年度 第 1 回心理学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成 23 年 4 月 22 日（金） 午後 3 時から午後 5 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：木村裕委員長、大島尚委員、中澤清委員、金子尚弘委員（Skype にて参加）  
（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員
- IV. 議事概要
  1. 検討内容
    - ① 初めに、「臨床心理学領域の授業モデル」案について、資料をもとに検討を行った。
      - ・ 資料では、臨床心理学領域の教育全般について、基礎科目から応用科目（教室内での実習）、さらに高度な応用としての現場実習までがあげられている。学生と教員、学生と TA・大学院生とのコミュニケーションの部分に ICT が使われると想定される。また、臨床実習では現場のスタッフからのフィードバックに、社会とのつながりでは病院、児童支援施設、学校現場からのフィードバックにも ICT が利用されると考えられる。基礎科目でも、コミュニケーション手段、授業教材、授業方法などに ICT が活用できるが、講義形式が基本なので、他の領域のモデルと大きく変わることはない。
      - ・ 授業モデル案「到達目標 1」に対応し、「到達目標 3」に対応するとすれば、臨床心理学の専門家を養成するだけでなく、一般の社会や企業にまで範囲を広げて、カウンセリングマインドを身につけることや、企業人としての行動のあり方、他領域との連携などを授業デザインに含めた方がよい。また、ICT の利用の面では、応用や実習の時点で基礎を振り返るしくみや、実習のレベルで社会に向けて提示し、社会からのフィードバックを受けるしくみなどを考えることができる。
    - ② 次に、「基礎・応用系の授業モデル」案について、資料をもとに検討した。
      - ・ ICT を使う意味として、時間的・空間的に制約された環境を開放していくという考え方に立っている。他大学や地域との協調、学問分野を越えた連携などを重視し、情報検索や e ラーニングによる自己学習を行い、自分自身で学習成果を確認するようなシステムを有効に使いたい。
      - ・ 授業科目においては、まず心理学的な知識の獲得が重要で、個別学習で自己採点しな

がら、くり返し学ぶようなシステムを ICT で実現する。次に、知識を用いて説明し、討論するような学習を取り入れる。行政や地域住民を討論に巻き込み、SNS による議論や Web を通した不特定多数への公開へと拡張していく。それらの成果をデータベース化して、大学の中に蓄積していくようなしくみも必要になる。

- ・ 「基礎・応用系の授業モデル」をベースにしながら、「臨床心理学領域の授業モデル」にある社会への広がりやフィードバックを実習の中で展開することになるだろう。基礎の学習を振り返るしくみに中に ICT が活用できる。
- ③ 授業モデルの検討の中で、学士力の評価をどのように行うべきかが議論された。
- ・ 「臨床心理学領域の授業モデル」に、卒業論文や卒業研究を加えることができる。ただし、大学によっては必ずしも卒業論文が必修ではないので、卒業試験や面接によって到達度を確認する方法も考えられる。
  - ・ 評価者は基本的にゼミ担当教員ということになるが、実習の場合には現場のスタッフからの評価も加味しなければならない。

## 2. 次回までの宿題

- ① 「基礎・応用系の授業モデル」案については、例示にあるような章立てにしたがって表示する。
- ② 「臨床心理学領域の授業モデル」案については、「基礎・応用系の授業モデル」の内容を前提として、実習の部分を書く。
- ③ シラバスは意識するとしても背後に隠しておき、資料にある形式でモデル案を提示する。

## V. 次回の委員会開催日

日時：平成 23 年 5 月 27 日（土）午後 3 時半から

場所：私立大学情報教育協会事務局